

【学芸員お薦めの一品】

国際交流展「^{うみやま}海山に宿る神々～^{さいし}日韓の祭祀遺跡～」

2018（平成30）年10月6日～12月2日

企画展の開催期間中、週替わりでお薦めの展示品を紹介します。

No.2 海民世界の祭祀具

^{ぼっこつ}ト骨はシカやイノシシなどの動物骨に穴をあけ、焼いた際にできる亀裂の形で吉凶を占う道具です。もともとは中国大陸の習俗でしたが、まず韓半島の海民世界で受容され、続いて韓半島と日本列島の海民が交流する中で日本列島にも波及していったと考えられています。^{こがたどき}小型土器は、韓半島の遺跡ではト骨と同じ遺構・同じ層位から出土する事例が目立つことから、ト骨と使用方法が類似していた可能性が指摘されています。

これらの祭祀具は^{おきのしま}玄界灘の沖ノ島などで国家が関与した大規模な祭祀が開始される以前の、在来的な航海祭祀を考える上で重要です。



ト骨と小型土器／^{クンゴンニ}郡谷里貝塚（^{ヘナム}韓国全羅南道海南郡） 国立光州博物館所蔵

【参考文献】国立文化財研究所 2001 『韓国考古学事典』 ※韓国語文献
国立全州博物館 2015 『ト骨』祭祀遺跡／遺物資料集1 ※韓国語文献